

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：22401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K01766

研究課題名（和文）新任養護教諭の職務困難ストレス対処のための支援デザインの構築

研究課題名（英文）Creating a Supportive Method of Helping Newly Appointed Yogo Teachers Cope with Stress

研究代表者

上原 美子（UEHARA, YOSHIKO）

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号：10708473

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、研究代表者の先行研究によりストレス対処を必要とする新任養護教諭を対象とした。目的は、首尾一貫感覚(以下SOC)の3つの下位概念「把握可能感」「処理可能感」「有意味感」に着目した支援デザインの開発である。新任養護教諭、定年退職経験者及び新任養護教諭研修担当者のインタビュー調査を行った。その結果、【職務の多忙さ】【自身の力量不足】【周囲からの介入への対応】【養護教諭間の人間関係】がストレス要因であった。また、不明な点を周囲に聞く姿勢不足との評価があった。これらを踏まえ、SOCの向上を支援できる「養護教諭のキャリアノート」を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

文部科学省教職員メンタルヘルス対策検討会議（平成25年3月29日）の最終まとめにおいても所属校2年以内にメンタルヘルスが不調になることが報告されている。本研究結果として、調査結果を踏まえた「養護教諭のキャリアノート（スタート編）」を完成させた。

新任養護教諭のストレス対処に成果が期待でき、職務に夢と希望を持ち続け、意欲的に職務に向き合えることで、子どもの選考を支える職責が果たせると考える。これらの姿勢は子供たちの心身の生涯にわたる健康の保持増進に寄与できると考える。

研究成果の概要（英文）： We studied newly appointed Yogo teachers who, in an earlier study performed by our research representative, had been found to need methods of coping with stress. Our aim was to create a support method focusing on the 3 subordinate concepts of Sense of Coherence (SOC), namely sense of comprehensibility, sense of manageability, and meaningfulness. We interviewed newly appointed Yogo teachers, experienced and retired teachers, and trainers of newly appointed teachers. We found that the stress factors were “Work pressure,” “Lack of ability,” “Dealing with intervention by others,” and “Relationships between Yogo teachers.” Evaluations showed that newly appointed teachers lacked the willingness to ask those around them about things that were unclear.

From these findings, we created a “Career Notebook for Yogo Teachers,” which will help them to improve their SOC.

研究分野：学校精神保健

キーワード：新任養護教諭 ストレス対処 首尾一貫感覚 キャリアノート

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1)近年、社会及び生活環境の急激な変化により、子どもたちの心身の健康が大きく影響を受け、生活習慣の乱れ、いじめ、不登校、児童虐待、アレルギー疾患、性の逸脱行動や薬物乱用、感染症などの新たな健康課題の対応において養護教諭に求められる役割は多岐多様となり、高度化している<sup>1)</sup>。

(2)文部科学省<sup>2)</sup>によれば、教員に対する過重な期待と負担の増加からメンタルヘルスなど様々な問題が生じ、教員の全国病気休職数は1993年以降連続で更新し、「うつ病」やストレスによる神経症など精神疾患は6割を占めるといふ。精神疾患による休職者は男性0.53%、女性0.55%であるが、職種別では教諭等0.60%、養護教諭0.29%である。また、職種別精神疾患による休職者数の内訳は、校長0.6%、副校長・教頭1.6%、養護教諭2.5%、教諭・助教諭・講師92.7%、その他1.4%であり、一人種である校長、副校長・教頭との比較からも養護教諭は割合が高くなっている。

(3)公立小中学校離職率では、25歳未満は、28.3%と一番高く、次は55歳から59歳までの26.1%であった<sup>2)</sup>。これらのことから本研究では「新任養護教諭」に着目した。

(4)健康の定義は、最もよく知られているものは、世界保健機関(WHO)が1946年に提唱した定義であり、一方、一次予防において、健康の保持増進を推進する上で、今後重要な役割を果たすと考えられている新たな概念としての健康生成論では、個体が健康な状態を保つことができるのはなぜかというところに焦点をあてている。健康生成論とはAntonovskyが提唱した概念<sup>3)</sup>であり、首尾一貫感( Sense of Coherence; 以下、SOC)を中核概念としている。SOCは把握可能感、処理可能感、有意味感の3つの要素で構成されており、合計得点が多いほどストレス対処が強いとされている。

### 2. 研究の目的

(1)新任養護教諭、退職経験元養護教諭、新任養護教諭研修担当者によるインタビュー - 調査を実施し、新任養護教諭のストレス対処力の現状と課題を把握する。(調査研究)

(2)「新任養護教諭の支援デザインの構築・ツールの作成を目指し、養護教諭のためのキャリアノート【スタート編】」を作成する。

### 3. 研究の方法

#### - 調査研究 -

(1)調査方法：新任養護教諭、定年退職経験元養護教諭、新任養護教諭研修担当者を対象としたインタビュー - 調査

#### (2)対象

A養護教諭養成大学卒業後就職し、公立学校に勤務している1年以内の養護教諭8名のうち、調査の同意を得られた新任養護教諭5名を対象とした。全員女性である。

定年退職をした養護教諭経験者、調査の同意を得られた5名であった。全員女性である。

都道府県及び政令指定都市教育委員会、養護教諭担当指導主事経験者であり、全国6地域(北海道・東北地方1名、関東地方3名、中部地方1名、近畿地方1名、中国・四国地方1名、九州・沖縄地方1名)から、縁故をたどって8名を選定した。全員女性である。

(3)データ収集方法：半構造的面接(半構造化インタビュー)での1対1の対面形式で実施した。インタビューガイドに基づき、面接は1回行い、同意を得て、ICレコーダーに録音した内容を逐語録とし、データとした。面接内容は、「解決が困難であった出来事のなかで、印象に残っている事例について」「新任時代にさかのぼり、職務上の困難感について」「新任養護教諭の印象、不足している力、養成時につけておきたい力について」とした。

(4)分析方法：修正版グラウンテッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)<sup>4)</sup>を用いた質的帰納的研究である。インタビュー - ガイドに基づき、語っていただいた内容を逐語録とし、該当する内容を取り出しデータとした。データから分析し、カテゴリー構成概念とカテゴリー - を生成し、複数の概念間の関係を解釈的に結果図及びストーリーラインにまとめた。

(5)倫理的配慮：研究代表者の所属校である埼玉県立大学倫理委員会の承認のもと実施された。

#### - 支援デザインの構築・ツールの作成 -

(1)調査研究の結果を踏まえSOCの3つの要素である把握可能感、処理可能感、有意味感の向上を支援できる項目及び内容(案)を組み立てる。

(2)研究分担者、研究連携者及び小、中、高校及び特別支援学校の養護教諭間で編集委員会を開催し、検討を重ね「養護教諭のためのキャリアノート」を完成させる。

### 4. 研究成果 (カテゴリー - 構成概念を 、カテゴリー - を【 】で示す。)

#### (1)新任養護教諭の職務上の困難感

年齢は全員が20代前半であり、小学校勤務4名、中学校勤務1名であった。面接時間は平均47分(38分~63分)であった。複数配置は2名であった。生成された13のカテゴリー - 構成概念は養護教諭の職務内容の多さ 予想以上に多い事務作業 仕事の悩みを共有できない 児童生徒の訴えへの判断と対処に迷う 保健室に求められていることにとまどう 突発的な事故への対応 必要な知識や技術不足 教職員のアドバイスに振りまわされる 複数の養護教諭指導者のアドバイスへの迷い 保護者の求める救急処置がむずかしい 担任の判断に基づいた対応のしにくさ 養護教諭の複数配置の場合の仕事の進め方に迷う 他校の養護教諭とのつきあい方 であった。職務上の困難感は、【職務の多忙さ】や【自身の力量不足】の個人の内的要因と【周囲からの介入への対応】

学校内外の周囲の人間関係による外的要因があること、【養護教諭間の人間関係】は、内的要因と外的要因があること示唆された。結果図を以下に示す（図1）。

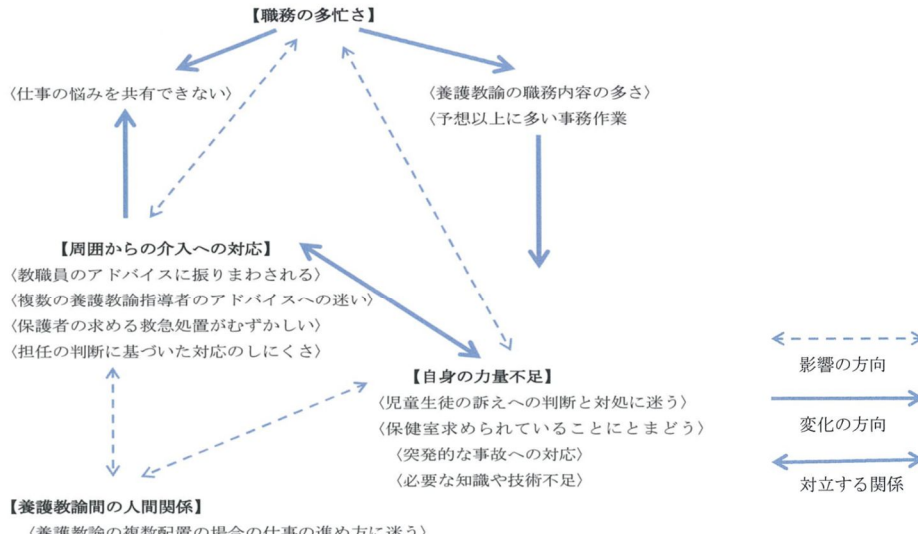


図1 結果図 新任養護教諭の職務上の困難感

### (2) 定年退職養護教諭の新任養護教諭時代の職務上困難感

研究協力者は5名であった。年齢は全員が60代であった。面接時間は平均55分（40分～65分）であった。教員採用年度は、昭和42年度～49年度の間であった。昭和42年度～49年度の間採用されていることから、昭和47年12月保健体育審議会の答申及びこれに基づく各般緒の実施・措置により、学校保健は一つの時期を画することとなった<sup>5)</sup>。まさにこの時期に新任養護教諭としてスタートしたことになる。新任養護教諭には、【職務の多忙さ】【職務外の役割分担に苦慮する】など、時代を超えても変わらない不易としての困難感が存在することが示唆された（表1）。

表1 定年退職養護教諭の新任養護教諭時代の職務上困難感

カテゴリー	カテゴリー構成概念
着任した学校の現状に左右される	校長の養護教諭に対する理解が影響する
	児童生徒数の影響が大きい
	教職員のメンバーによる差が大きい
	研究校などの学校の取り組みや校風に影響される
	保健室の設置状況に差がある
職務外の役割分担への対処に苦慮する	校医が養護教諭の職務を知らないことに戸惑う
	予防接種への対応を求められる
	校内研修や研究会の時の事務室や職員室の留守番を依頼される
職務の多忙さ	お茶くみの仕事の連続
	事務量が多い
	勤務時間が長い
養護教諭としての認識がされない	前任者の有無で公務分掌の量が異なる
	研究物をまとめることにより他の教職員の評価を得る
	教諭の免許を取ることで「教諭」としての認識を得る

### 3) 新任養護教諭研修担当指導主事からみた新任養護教諭の印象

研究協力者は8名であった。年齢は40代から50代であった。面接時間は平均51分（45分～65分）であった。11のカテゴリー - 構成概念と4のカテゴリー - が生成された（表2）。

ストーリーラインを以下のように作成した。

表2 新任養護教諭研修担当指導主事からみた新任養護教諭の印象

カテゴリー	カテゴリー構成概念
養成機関での学び	養成大学等によって強みや弱みが異なる
	知識、技術やまとめる力をもっている
	養護教諭の実際の経験が不足している
専門職としての意識や見通し	経験者は落ち着いて取り組んでいる
	判断を管理職に頼りすぎる
	看護師と養護教諭の専門性の区別がついていない
	養護教諭の職務がつながっていない
困難時の解決方法	困っていても人に聞かず、自分で解決している
	学びのモチベーションが低い
児童生徒理解	生活体験不足から子どもたちの背景が想像できない
	人間性にかかわる体験が不足している

## ストーリーライン

新任養護教諭研修担当指導主事からみた「新任養護教諭の印象、不足している力、養成時につけておきたい力」は、難関である教員採用試験を突破していることから全体的に知識、技術やまとめる力をもっている。しかしながら、【養成機関での学び】により、差が見られ、教育系、看護系、学際系など養成大学等によって強みや弱みが異なるなかでも学生時代の養護教諭の実際の経験が不足している。臨時的任用などの経験者は落ち着いて取り組んでいる一方、判断を管理職に頼りすぎている。看護師と養護教諭の専門性の区別がしていない。養護教諭の職務がつながっていないという【専門職としての意識や見通し】が不足しており、仕事の進め方が、細切れになっている。その場合【困難時の解決方法】として周囲に聞いて解決すべきところを、困っていても人に聞かず、自分のなかで解決しているという。また、解決のために必要であろう学びのモチベーションが低いこともみられる。なにより【児童生徒理解】に求められる生活体験不足から子どもの背景の想像ができない人間性にかかわる体験が不足していることが示唆された。

### (4)養護教諭のためのキャリアノート【スタート編】作成

新任養護教諭は子どもたちの心身の健康を含める情報が集まる間もなく、日常の仕事が始まることになる。多忙感と自身の力量不足に直面し、また、周囲のアドバイスがない、または適切ではない場合に、仕事に対する不満足に伴う、メンタルヘルスの低下がおきることも懸念される。定年退職を経験した元養護教諭は、困難時の解決方法として、資格を取ったり、研究物をまとめたりするなど仕事に対するモチベーションが高いことが伺えるが、新任養護教諭研修担当指導主事からは、困難時の解決方法として、人に聞くことをせずに自分の中で解決したり、学びへの消極的な姿勢がうかがえた。これは困難時に解決方法がわからないことが推測できる。そのため、養護教諭のスタートを支える「養護教諭のためのキャリアノート」はSOCの「把握可能感」、「処理可能感」、「有意味感」の3つの要素<sup>3)</sup>を意識して構成した。蛭名氏は、把握可能感を「わかる感」、処理可能感を「できる感」、有意味感を「やるぞ感」とし、SOCは、良質な人生経験を重ねることで高めていくことができる<sup>6)</sup>と述べている。キャリアノートでは、この3つの概念「わかる」、「できる」、「やるぞ」を高めることを期待し、作成したものである。



図2 養護教諭のためのキャリアノート（抜粋）

「わかる感」、処理可能感を「できる感」、有意味感を「やるぞ感」とし、SOCは、良質な人生経験を重ねることで高めていくことができる<sup>6)</sup>と述べている。キャリアノートでは、この3つの概念「わかる」、「できる」、「やるぞ」を高めることを期待し、作成したものである。

## 引用文献

- 1) 文部科学省. 「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」(中央教育審議会答申)2008.
- 2) 文部科学省. 「メンタルヘルス対策について(最終まとめ)」. (Accessed Aug 2017, at [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/.../1332655\\_03.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/.../1332655_03.pdf))
- 3) Antonovsky A. Health, Stress and Coping. San Francisco: Jossey-Bass, 1979.
- 4) 木下康仁. グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 - 質的研究への誘い. 弘文堂 2003
- 5) 学校保健・安全実務研究会編. 新訂版学校保健実必携 第3次改訂版, 第一法規 2014
- 6) 蛭名玲子. 困難を乗り越える力 はじめてのSOC.PHP 新書, 2012

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 上原美子	4. 巻 2
2. 論文標題 養護教諭の職務の特性とメンタルヘルスを考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「子ども・教職研究」埼玉県立大学保健医療福祉学部教職担当者会	6. 最初と最後の頁 59 - 66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原美子	4. 巻 1
2. 論文標題 養護教諭のストレス対処力に影響を及ぼす要因の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子ども・教職研究	6. 最初と最後の頁 16 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原美子	4. 巻 35（2）
2. 論文標題 学校ボランティアを経験した教職を目指す学生の学び	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 思春期学	6. 最初と最後の頁 202 206
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 上原美子	4. 巻 108号
2. 論文標題 養護教諭における「シミュレーション研修」のすすめ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 埼玉県養護教員会 みんなで学ぼう	6. 最初と最後の頁 20 21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiko UEHARA Tomiko NAKASHITA	4. 巻 26巻
2. 論文標題 Awareness of Duty-Related Difficulties for Newly apointed Yogo Teachers -Attempting to stop immunity declines in educational situations-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Physical Fitness, Nutrition and Immunology	6. 最初と最後の頁 154-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原美子	4. 巻 59
2. 論文標題 子どもたちからのサインを養護教諭として翻訳するー専門的コミュニケーションを活用してー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 保健の科学	6. 最初と最後の頁 102-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 上原美子、中下富子、久保田かおる
2. 発表標題 養護教諭20年以上経験者における職務上の困難感
3. 学会等名 日本養護教諭教育学会第26回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 養護実習における自己評価の分析 (第2報)
2. 発表標題 日本養護教諭教育学会第26回学術集会
3. 学会等名 上原美子、高田恵美子、亀崎路子、鈴木薫
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上原美子、中下富子、亀崎路子、関美雪
2. 発表標題 養護教諭のストレス対処力に影響を及ぼす要因の検討
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上原美子、高田恵美子、亀崎路子
2. 発表標題 養護実習における自己評価の分析（第1報）
3. 学会等名 日本養護教諭教育学会第25回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上原美子、中下富子、久保田かおる
2. 発表標題 定年養護教諭における新任時代の困難感
3. 学会等名 日本養護教諭教育学会第25回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上原美子、山中寿江、亀崎路子
2. 発表標題 養護教諭の職務困難ストレス対処のための支援デザインの構築－養護教諭におけるシミュレーション教育の構築
3. 学会等名 日本学校健康相談学会第14回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上原美子 中下富子
2. 発表標題 新任養護教諭における職務上の困難感の実態－新任養護教諭のインタビュー調査から－
3. 学会等名 日本養護教諭教育学会 第24回学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上原美子
2. 発表標題 養護教諭の専門的コミュニケーション
3. 学会等名 比企地区養護教員研修会（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 大谷尚子、森田光子、山中寿江、斉藤ふくみ、亀崎路子、上原美子他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東山書房	5. 総ページ数 196
3. 書名 新版 養護教諭の行う健康相談（養護教諭必携シリーズ）	

1. 著者名 横山恵子、蔭山正子、岡田久実子、上原美子他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 214
3. 書名 精神障がいのある親に育てられた子どもの語り	



1. 著者名 保健の実践科学シリーズ 学校看護学	4. 発行年 2017年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 225
3. 書名 松浦賢長 笠井直美 渡辺多恵子 太田泰子 鈴木雅子 上原美子他	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中下 富子  (NAKASHITA TOMIKO)  (50398525)	埼玉大学・教育学部・教授    (12401)	
連携研究者	高田 恵美子  (TAKATA EMIKO)  (70623908)	畿央大学・教育学部・教授    (34605)	
連携研究者	亀崎 美智子  (KAMEZAKI MICHIKO)  (50413026)	杏林大学・保健学部・教授    (32610)	
連携研究者	吾郷 美奈恵  (AGO MINAE)  (20209844)	島根県立大学・看護学部・教授    (25201)	
連携研究者	長沼 葉月  (NAGANUMA HAZUKI)  (90423821)	首都大学東京・社会(科)学研究科・准教授    (22604)	